

教師用 指導案

1. テーマ・授業名

テーマ2 パラリンピックスポーツ

授業4 「ボッチャをやってみよう！」

2. 授業の目標

- ・集中力、投球技術、戦略性、チームワークが必要とされるボッチャを体験することで、パラリンピックスポーツに興味を持つ。
- ・重度の障害があり、自力で投球することが難しい場合は、ランプという道具を使ったり、ランプオペレーターに指示を出したり、足で蹴ってボールを転がしたりすることで、プレーに参画できるように工夫されていることを理解する。
- ・ボッチャを楽しみ、競技の魅力に触れることで、自分の言葉でボッチャのよさを人に伝えられるようになる。

3. 本時の位置づけ

- ・道徳の「友情、信頼」「相互理解、寛容」などの視点における事例学習として活用。
- ・総合的な学習の「福祉」の授業での活用。
- ・特別支援学校・学級との交流授業、地域住民との交流会などでの活用。
※その他、体育、学級活動、学年集会などの時間を活用してもよい。

4. 指導の留意点、工夫点

- ・本時の前に、ボッチャの試合やルール映像を見せたり、ボールに触れたりしておくといよい。実施できなかった場合も、朝の時間などを使って、本時が始まる前に映像を見せておくといよい。
- ・どこにどのように投げると高得点につながるか、どういう投げ方があるかなどを深く理解させると、戦略性が高まり、試合での動きが充実する。ただのボールの投げ合いにならず、作戦を常に考えられるチームとなるようにしたい。
- ・試合の時間をできるだけ多くとり、どの場所に投げるとよいか、どのような投げ方がよいかなど、チームで作戦を立てたり、よい指示を出し合ったりできるようにする。
- ・数時間実施する場合は、チームメンバーの一人ひとりの特長（遠くまで飛ばせる、正確に投げられるなど）に気づき、ゲームに反映できるようになるとよい。

動画でコート準備の仕方、ボールの作り方、投げ方、得点の数え方、指導上の留意点を説明しています。

【教師用映像】① ボッチャをやってみよう！（4'53"）をご覧ください。

② ボッチャをやってみよう！（ボッチャのルール）（5'10"）では、ルール、ボールの投げ方、得点の数え方を説明しています。

【① コート準備、ボールの作り方】 【② ルール、投げ方、点数の数え方】



5. 準備物

【ボッチャの競技説明】

- ・ 授業用シート (2-4)
- ・ 児童用ワークシート (2-4)
- ・ 資料映像：ボッチャのルール
- ・ ボール
- ・ ボールからの距離を測るためのメジャー、ひも、コンパス、箸などの細い棒状のものなど
- ・ テープ (コートを示すために床にはるテープ)、コーン



6. ボッチャの本来のルール

詳細は「かんたん！ ボッチャガイド」(公財)日本パラスポーツ協会発行

http://www.parasports.or.jp/about/referenceroom_data/competition-guide_10.pdf 参照

- ・ ジャックボールと呼ばれる白いボールに向けて、赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げたり転がしたりして、いかに多く近づけられるかを競う。ボールは周長が270mm ± 8mm 以内、重さは275g ± 12g 以内
- ・ 個人戦 (1名)、ペア戦 (2名)、チーム戦 (3名) がある。
- ・ 赤青ともに6球投げると1エンド終了。得点計算を行う。すべてのエンド終了後、合計した点数で勝負が決まる。個人戦とペア戦は4エンド、チーム戦は6エンドを行う。
- ・ 試合開始となる第1エンドは常に赤ボールが先攻となる (以降、偶数エンドは青ボール、奇数エンドは赤ボールが先攻)
- ・ 試合の流れ：先攻側が的となるジャックボールを投げ、続けて1投目の投球を行う。後攻側が最初の投球を行う。以降、ジャックボールからより遠い位置にボールを投げた側の選手がその次の投球を行う。
- ・ 投げるまでの時間は、クラスや対戦方法で4分～7分と決められている。
- ・ 次に投げる側は、コート内に入り、ボールがどのように置かれているかを見ることができる。
- ・ 得点の数え方：ジャックボールに最も近いボールを投げた側が勝ちで得点が入る。負けた側のボールのうち、最もジャックボールに近いボールとジャックボールの間にある、勝った側のボールの数が得点となる。ボールの最も近いところで距離を測る。

※得点の数え方は、次ページまたは資料映像「ボッチャのルール」をご覧ください。

※得点の数は、資料映像「ボッチャのルール」の中で、アニメーションを使い詳しく説明しています。

エンド終了時、ジャックボールにもっとも近いボールを投げた側のみ得点が入ります。相手側のジャックボールに最も近いボールよりも、ジャックボールに近いボール1個につき、1点が与えられます。



ジャックボール

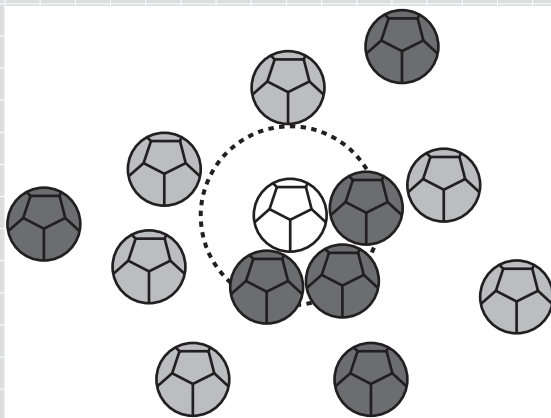


青ボール



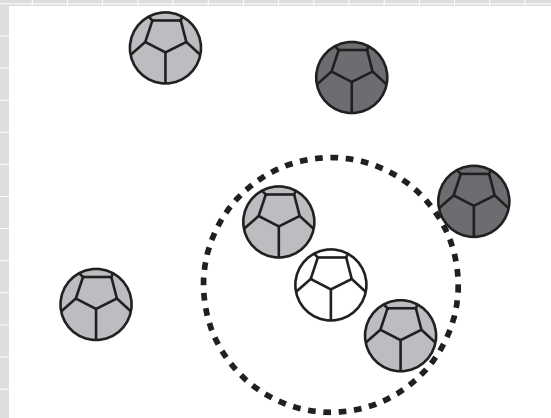
赤ボール

●第1エンド



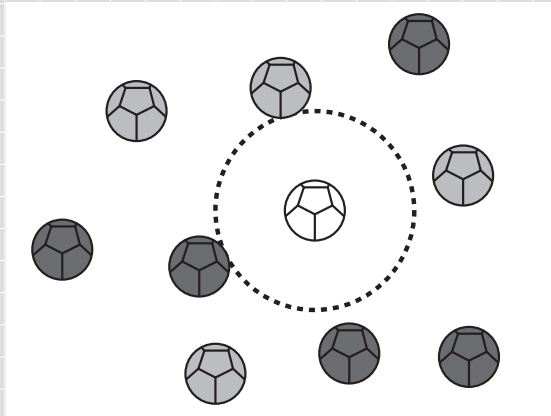
● (青) のほうが● (赤) よりも3つジャックボールに近いため、青に3点が入ります。

●第2エンド



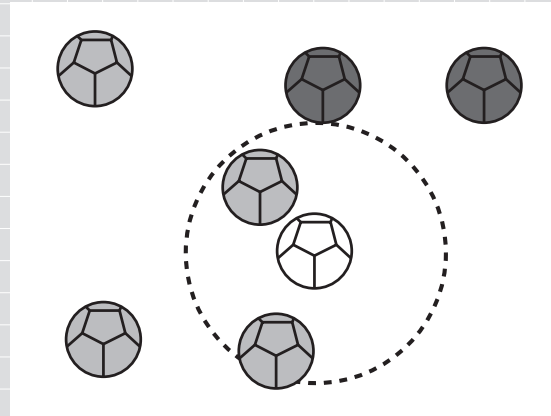
● (赤) のほうが● (青) よりも2つジャックボールに近いため、赤に2点が入ります。

●第3エンド



● (赤) ・● (青) とともにジャックボールから同距離ということで、両チームに1点が入ります。

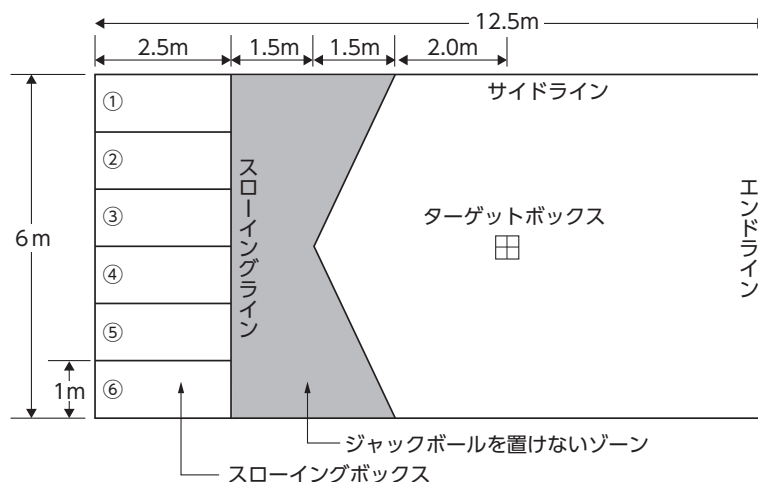
●第4エンド



● (赤) のほうが● (青) よりも2つジャックボールに近いため、赤に2点が入ります。

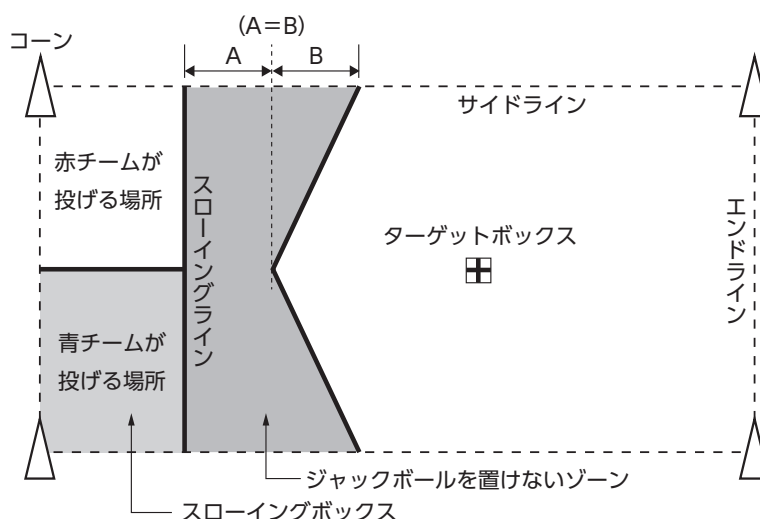
個人戦	第1エンド	第2エンド	第3エンド	第4エンド	合計
A選手 (赤)	0	2	1	2	5
B選手 (青)	3	0	1	0	4

- ・コートのおおきさや投げる場所は決められている。
- ・コートを示す線の幅は2センチ。



7. 今回のルール

- ・クラスのおおきに合わせて、チームのおおきとコートのおおきを決める。
- ・2チームずつ試合ができるように、偶数のチームに分ける。
- ・複数コートができたときは、審判は児童が行う。
- ・1エンドに投げるボールのおおきは、1チームのおおきが少ないときは、ルールのように6個までとしてもよいが、6個にとらわれることなく、チームのおおきと同じにするなど、変えてもよい。
- ・試合は決めた数のボールが投げられたら1エンド終了。時間によるが2エンド行うのが目安。2エンド終わったら、点数計算をする。
- ・コートのおおきは、正式なサイズでなくてもよく、体育館のおおきに合わせて適宜変えてよい。バドミントンのコートがあれば、おおきさが近いので代用できる。
- ・投げる位置は、2つに分ける方法を取る。そうすると投げる場所も考えて試合を進めることができる。
- ・コートのおおきは厳密でなくてもよいので、下図の【----】のところは、ラインを引かなくてもよい。【—】(V、T、クロス)は、テープなどを貼って、はっきりさせておく。Tのところは、コーンなどで代用してもよいが、Vのところはラインを引いておきたい。
- ・ジャックボールが遠くに置かれてしまうと、ただ的当てゲームのようになり、戦略を考えた試合が成り立たなくなるので、Vの谷のあたりに投げることを促す。または、あらかじめ置いてから始めてもよい。



8. ボールの作り方

試合球を用意するのが難しい場合は、決められた大きさ、重さでなくてもよいので、以下の方法なども参考に、大体同じようなボールをそろえるとよい。児童が作ることもできる。作る場合は、試し投げをするエリアをあらかじめ決めておくと良い。また、ふざけないように注意を促す。

◇外側に丸いものを利用する方法

- ・外側にするもの ビニールのボールや、使い古しのテニスのボール、カプセルトイのケースなど
- ・中に入れるもの ビニール袋に入れた砂、油粘土、スライム、新聞紙など
- ・ボールができたなら、カラーテープをまく。むき出しにすると転がりすぎてしまうので、靴下や毛糸、新聞紙などをまいてもよい。
- ・競技用と同じ重さでなくても大体の大きさや重さがそろっていればよい。
※映像で使用しているものは、総重量 100g 強（ボール 10g 強、砂 95g）で、正式球の半分以下の重さだが、十分実施できる。

◇新聞紙などをまく方法

- ・外側にするもの 新聞紙、靴下など
- ・中に入れるもの 大きめの石もしくはビニール袋に入れた砂、油粘土、スライムなど
- ・中に入れるものを芯の部分にして、その周囲に新聞紙をまき、球状にする。その上から布ガムテープやカラーテープをまく。
- ・新聞紙 1 枚を 4 分割し、4 回に分けてまくと平均的にまくことができる。
- ・この方法だと仕上がりはおよそ直径 7cm になる。大きさはそろえたほうがよい。
- ・きれいな球にならないので、転がり方に特徴がでる。その癖を知ることが必要。外側にボールなどを使うものよりは止まりやすい。
※映像で使用しているものは、総重量 100g 強（新聞紙 1 枚 20g 弱、砂 85g）で、正式球の半分以下の重さだが、十分実施できる。

上の段 外側にボール 中に砂
下の段 外側は新聞紙 中に砂



【教師用映像】ポッチャをやってみよう！（授業の進め方）に、詳しいボールの作り方の説明があります。

URL: <https://youtu.be/Q3-tpMgabyQ>

〈展開案〉※【 】内は経過時間

時間	学習活動 ○子どもの活動 (引き出した子どもの声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
導入① (2分) 【2分】	今日のめあてを理解しよう！		<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料： ポッチャのルール ・授業用シート
展開① 練習と ルールの理解 (13分) 【15分】	<ul style="list-style-type: none"> ○今日のめあてを理解する。 ○ボールを投げてみて、どのくらいの強さで投げるとどのくらい転がるかを確認する。 ○まっすぐ投げる時の投げ方やボールをはじく時の投げ方など、実践に使えるような投げ方を体感する。 ○得点の考え方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○映像での説明は、この時間の前に済ませておく。 ○チーム分けも事前に知らせておくとスムーズ。 ○準備体操は先に済ませておいてもよい。 ○ジャックボールを置いて、そこに向かってボールを投げさせ、ジャックボールに近づけるためには、どのくらいの強さだといいかを考えさせる。 ○ボールを取りに来るときに、自分のボールしか見ず、頭をぶつけやすいので、注意を促す。 ○状況を見て、以下の投げ方を伝えていくとよい。 アプローチ：白いボールに近づけるために、手前に落として転がす。 プッシュ：コート内のボールを押すために転がすように投げる。 ヒット：直接相手ボールに当てるために投げる。 ○手作りのボールを使った場合は、転がりやすいもの、止まりやすいものなど、どれを選ぶかを決めさせてもよい。 ○実際にボールを見ながら、点数について説明する。授業用シートはあくまで参考なので、使用しなくてもよい。 ○ルールの説明は、代表者に実際に試合をさせて、その中で説明していくこともできる。 ○チームで作戦を練ることを強調する。 	

時間	学習活動 ○子どもの活動 (引き出した子どもの声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
展開② 試合 (25分) 【40分】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ボッチャの試合をしてみよう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ○コートに分かれて、自分たちで審判もしながら、試合をする。 ○選手としては、どのボールを使って、どこにボールを投げるとよいかを考えて、思ったところに投げられるようになる。また戦略を立て、チームメイトにアドバイスできる。 ○審判としては、正しい判定ができる。時間管理が正しくできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の試合の進め方を説明する。 ○段取りがわからないチームにはフォローする。 ○チームで作戦を立てることは強調する。しかし、作戦に時間がかかりすぎていないかも気にしておく。 <p>・「どこに投げるといいか、相談しながらやろう。」</p> <p>・「作戦をまとめてくかったら、リーダーを決めて話し合うといいよ。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業用シート (2-4) ・児童用ワークシート兼得点表
振り返り まとめ 片付け (5分) 【45分】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">今日、思ったことを発表しよう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ○体験して思ったことを発表する。 ・思ったところに投げられずに難しかった。 ・どこに投げるといいかを考えるのは楽しかった。 ・もっとやりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感想を2～3人に発表させ、ボッチャの楽しさを知り、より応援する気持ちを引き出す。 ○どのような工夫があるから障がいの重い人たちも楽しむことができるのかについても考えられるとよい。 ⇒立っても座っても球が投げられるから、車いすの人も一緒にプレイできるね。 ⇒ボールの大きさや重さが、ちょうど投げやすい大きさ・重さになっているね。 ⇒自分でボールを投げられない人は、足で蹴ってもいいし、ランプという細い滑り台のような器具を使って、サポートしてくれる人と一緒にプレイすることもできるんだよ。 <p>○今日の感想、ボッチャの説明を宿題として出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業用シート (2-4) ・児童用ワークシート兼得点表 (2-4)